

Pick

輝く男性の家事・子育て体験記

親として・職員として成長できた1か月の育児休業

公務員 M. R

私は第一子である息子が生まれ、2か月を迎えた頃に約一か月間の育児休業を取得しました。

育児制度について、男性でも取得できるということは以前から知っていましたが、出産予定日が近づき、周りの先輩方から「育休はとるの?」「2人でゆっくり子育てができるチャンスだし勉強になるよ!」と声かけをいただいたことがきっかけで取得を考えました。

育児取得を考えていることを妻はとても喜んでくれました。「自分の仕事はどうしたらいいんだろう…」と考えると少し不安で、職場に申し訳ない気持ちもありましたが、上司や同僚には快く受け入れていただき、引継ぎの準備をしていただきました。



息子が生まれてからの日々は、それまでとはガラッと変わり息子中心の生活で、頻繁にミルクをあげたり、おむつ交換や寝かしつけなどを行いながら、空いた時間に自分たちの食事の準備、洗濯、掃除などの家事を行います。また、睡眠のサイクルが安定しないうちは夜も頻繁に起きる日が続きます。子育てが始まればそうした生活になるのは理解していましたが、いざ毎日経験してみると、体力的にも精神的にも過酷なものだと改めて実感しました。

そんな生活の転換期に、どちらかが1人で対応するのではなく、夫婦二人で協力しながら徐々に慣れていくことができ、親としての新しい生活のスタートをうまく切れたのではないかと思います。

また、育休中の一か月間は時間に余裕があったこともあり、インターネットや図書館を活用して育児について勉強することができました。夫婦で息子のことなどをゆっくり話し合う時間も取れ、育休を取得したことで生まれた時間を有意義に使うことができました。

復職後の仕事意識にも変化がありました。育休期間中に、夕方からは食事の準備や息子のお風呂、寝かしつけなどがあり忙しくなることを感じていたため、勤務時間終了後に早く家に帰れるよう、より効率的に業務を終わらせることを意識するようになりました。この意識

の変化は、育児休業を取得していなければなかったかもしれません。「仕事は夫が、家のことは妻が」という分業ではなく、お互いが楽になるようにという意識が育休のおかげで自然と芽生えたように思います。

仕事を終えて帰宅すると息子が毎日笑顔で迎えてくれます。息子が生まれる前は、「一日に少ししか会わないとお父さんのことを好きになってくれないんじゃないか」という不安が少しありましたが、育休中に息子とたくさん遊ぶ時間が持てたおかげか、私が帰るドアの音が聞こえると、玄関の方向へハイハイで進み、顔が見えるまでずっと待っていているようです。

育休の期間はたくさんの学びや良い変化があり、本当に貴重な時間でした。いやな顔一つせず背中を押していただいた職場には本当に感謝しています。仕事を引き継いでいただいたおかげで、スムーズに復職することができ、育児をする人にやさしい職場で本当に良かったなと思います。

育休を経験したことで、育児・育休をより深く理解することができました。これから育児をする同僚がいれば、私も同じように背中を押して協力したいと思います。

